

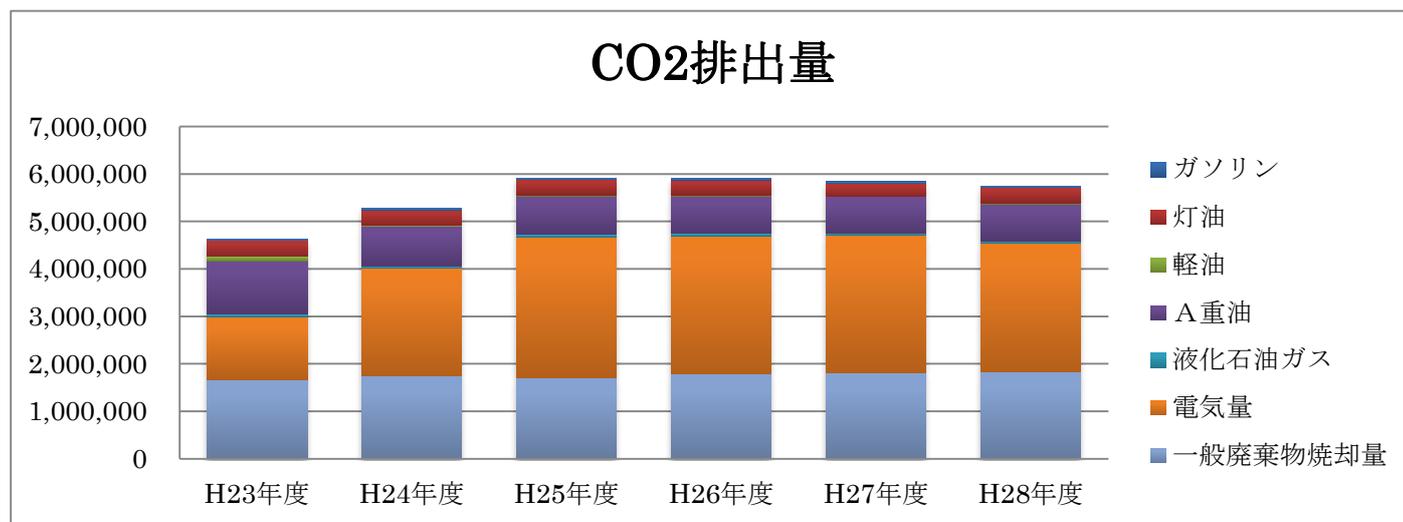
地球温暖化対策実行計画 平成28年度結果

第3次地球温暖化対策実行計画の平成28年度調査結果がまとまったので報告します。

●項目別二酸化炭素換算量

調査項目 \ 年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
ガソリン	27,378	32,598	35,035	31,910	30,962	34,673
灯油	327,330	325,463	317,798	317,804	268,680	323,184
軽油	95,233	18,989	20,057	19,032	16,909	17,463
A重油	1,127,206	831,856	818,308	793,922	758,696	784,429
液化石油ガス	53,273	46,817	45,975	43,239	42,227	42,331
電気量	1,336,324	2,278,894	2,964,927	2,912,374	2,894,097	2,715,656
一般廃棄物焼却量	1,658,800	1,741,740	1,714,093	1,788,739	1,824,680	1,832,974
二酸化炭素排出量	4,625,544	5,276,357	5,916,193	5,907,020	5,836,251	5,750,710

※一般廃棄物焼却量は廃棄物量の内、廃プラスチックの量の値



昨年、平成27年度の電気使用による二酸化炭素排出量を 1,354,491(kg)と報告していましたが、2,894,097(kg)の誤りでした。また、平成24年度以降、全ての報告において、電気使用による二酸化炭素排出係数を誤っていたため、環境省の発表にあわせた数値にそれぞれ訂正し、平成25年度のガソリン、灯油、A重油、一般廃棄物焼却量の排出係数を他の年度のものと同様と統一しました。その結果平成25年度をピークとして二酸化炭素排出量が推移していることがわかりました。

平成28年度の結果は、基準年度に比べ二酸化炭素排出量が約24%増加しておりました。要因としては、平成23年に発生した福島第一原子力発電所事故に伴い火力発電所などが再稼働し、電気使用による二酸化炭素排出係数が大幅に上昇したことがあげられます。

今年度は、計画の最終年度となりますが、上記理由等により目標の二酸化炭素排出量5%の削減を達成できませんでした。この結果をふまえて、第4次の計画では、各課・各施設等との連携を強化し、地球温暖化対策に取り組んでまいります。